

令和5年度

角田市教育委員会事務事業点検評価報告書

(令和4年度実施事務事業分)



令和6年1月

角田市教育委員会

目 次

1 点検評価について	2
------------------	---

(1)概 要

(2)目 的

(3)点検・評価に対する事務の対象

(4)点検・評価の方法

(5)評価結果の取扱い

2 点検評価結果	10
----------------	----

3 ま と め	17
---------------	----

I 点検評価について

(1) 概 要

点検評価は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、角田市教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行うものです。

(2) 目 的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。

その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し中立的な意思決定を行うものとされています。

教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(3) 点検・評価に対する事務の対象

「第2期角田市教育振興基本計画」に定める施策に関する事務事業のうち、令和4年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業、昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業、その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象とします。今回は7事業を重点的な事業対象とし点検評価しました。

(4) 点検・評価の方法

対象となる事業ごとに、必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。

この点検評価表を基に、教育委員会(定例会等)で点検評価を再検証し、最終的に事務事業点検評価報告書としてまとめました。

有識者については、事務局職員等以外の教育に関して公正な意見を述べることを期待できるよう、教育に関する学識経験者、保護者等3名の有識者を委嘱しました。

(5) 評価結果の取扱い

この点検評価結果について、評価の高い事業については、引き続き実施し、評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

第2期角田市教育振興基本計画の施策の展開

I 施策の全体体系

【本市教育の基本理念】						
<p style="text-align: center;">学びって楽しい！</p> <p style="text-align: center;">～持続可能な社会を実現する人づくり～</p>						
基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6	基本目標7
夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、未来を創造する力を育成します。	豊かな感性と健やかな体を持ち、かけがえない命を大切にすることを子供を育成します。	学校・家庭・地域の連携の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくれます。	あらゆる世代が生きがいを持って学び、活躍できるように生涯にわたって学習ができる機会の充実を図ります。	地域に伝わる歴史・文化遺産を大切に保存活用しながら、次世代に引き継ぎます。	市民一人一人が人生を豊かに過ごせるよう文化芸術活動を推進します。	明るく楽しく健康で活力あるまちの実現を目指し、生涯スポーツを推進します。
第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり 1ー(1)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 1ー(2)時代の要請に応える教育環境の整備	第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり 1ー(1)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 1ー(2)時代の要請に応える教育環境の整備	第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり 1ー(1)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 1ー(2)時代の要請に応える教育環境の整備 第2節 2ー(1)生涯学習の充実	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2ー(1)生涯学習の充実	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2ー(2)歴史・文化資源の保存活用	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2ー(3)文化芸術活動の推進	第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進 2ー(4)スポーツによるまちづくり

2 分野別施策

第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり

(1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成

【求められていること】

- 基礎学力の定着や健やかな体づくりといった、これまでの教育を引き続き進めることが必要です。
- 技術革新等により社会の変化が速まる中、これまで推進してきた「自ら学び、自ら考える力」を育む教育が、引き続き求められており、今後とも取り組む必要があります。
- いじめ問題や不登校の児童生徒が減らない現状であり、いじめや不登校への対応、児童生徒一人ひとりに対応したきめ細かな対応が求められています。
- 子育てを学ぶ機会の減少や地域のつながりの希薄化などにより、家庭や地域の教育力の低下が懸念されていることから、一層の対応が必要です。
- 人口が減少する中、地域を維持することが大きな課題となっています。基本となる地域社会を理解するためのコミュニティ教育を進めることが必要です。

【取組目標】

- ①学びの楽しさを通して確かな学力の定着を図るため、教育環境の整備を進めます。
- ②豊かな心と健やかな体を持った児童生徒を育成するとともに、児童生徒が将来の社会人としてより良い生き方を主体的に求めていく教育活動を展開します。
- ③いじめなどを防止し、安心して学校生活を送ることができるよう、一人ひとりの児童生徒に配慮します。
- ④家庭・地域との連携を図り、活力や特色のある地域に開かれた学校づくりに努めます。

【主な施策】

- ①児童生徒の学習意欲の向上、個性や能力を伸ばす機会を増やす取り組みを行うとともに、家庭学習の習慣を身に付けることで、基礎学力の定着を図ります。
- ②豊かな心と広い視野、健やかな体を持った児童生徒を育成するため、宇宙教育の推進やICT（情報コミュニケーション技術）を活用した学習環境、保健体育科の授業や部活動の充実により、未来社会に対応できる創造性豊かでたくましい児童生徒の育成を図ります。
- ③いじめや不登校への対応のため、学校・家庭・地域及び関係機関との連携強化により、未然防止、早期発見、早期対応を図ります。
- ④特別な配慮や支援が必要な児童生徒が安心して共に学べる環境づくりを推進します。
- ⑤地域と連携しながら特色ある体験活動や交流活動等を実施するとともに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域と共に開かれた学校経営を目指します。



▲タブレット端末を活用した授業

(2) 時代の要請に応える教育環境の整備

【求められていること】

- 学校などの教育施設は、教育活動を展開する上での基盤であり、安全で充実した施設にすることが求められています。
- Society5.0を見据えて時代の要請に応えた教育環境の整備が必要です。
- 学校施設の耐震化率は、100%を達成していますが、施設の老朽化が著しく、計画的な改築が必要な施設も出てきており、児童生徒の安全確保のため、施設の補修・改修を計画的に進める必要があります。
- 児童生徒数が減少していることから学校統廃合の検討が必要です。
- 学校給食を提供するため、学校給食センターの設備の入替等を計画的に進めるとともに、調理能力を生かした施設運用の検討が必要です。

【取組目標】

- ①児童生徒の安全確保及びICTなどを活用した学びに対応するため、学校施設の補修・改修などを進めるとともに、教育設備の充実を図ります。
- ②学校給食の提供により、食を通した児童生徒の心身の健全育成を図るため、学校給食センターの適切な運用に努めます。

【主な施策】

- ①老朽化が進む学校施設の補修・改修を計画的に進めるとともに、専門家による施設点検を行い、児童生徒が健康で快適な学校生活を送れるような、安全・安心な環境づくりを進めます。
- ②一人一台端末環境に対応するゆとりある机や余裕のある教室といった環境を整え、時代の要請に応えた設備・施設への整備・改修を進めます。
- ③学校給食センターの施設補修や設備の入替等を計画的に進めるとともに、施設の有効活用を図り、安全・安心な学校給食を提供します。

第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

【求められていること】

- 学校・家庭・地域が連携し、人づくりの「原点」である体験活動の機会を意図的・計画的に創出していくことが必要とされています。
- 核家族化やひとり親家庭の増加など、家庭環境の多様化や地域社会の変化による地域のつながりの希薄化により、家族・地域の教育力の向上が必要とされています。
- 地域において、世代を超えて互いに交流しながら、地域や暮らし、各々の生きがいを共に創り、高めあえる社会を実現するため、誰しものが生涯を通じて学び、地域に参画し、豊かな知識・技術・経験を生かせる環境整備が必要です。
- 図書館には、多様化する市民の学習意欲に対応するため、市民の生涯学習の中核としての役割が求められており、各世代の要望や、市民の学習意欲の高まりに応じるため蔵書の充実に努める必要があります。

【取組目標】

- ①人生100年時代を見据え、全ての人が生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進します。
- ②市民の生涯学習の中核となる公共図書館の役割を再認識し、学びの楽しさを実感できる図書館活動を通じて市民の生活・文化・教養の向上と豊かな地域づくりに努めます。

【主な施策】

- ①「誰しものが先生であり生徒」というコンセプトに基づき、角田市内全部をキャンパスとして多様な対話やつながりへのきっかけづくりを行う「かく大学」を通じて、市民の自由な学びの場を創出し、地域課題の解決や地域の活性化に向けた市民による主体的な活動を支援します。
- ②教養、防災、環境、子育て等の講座やワークショップ等を通じ、知識や教養を身に付け、高齢者の生涯学習の推進、女性の活躍の場を広げる機会を創出します。
- ③地域の多様な主体が連携協力しながら、子供たちの体験活動等の充実を図り、幼児期における教育の質の向上、家庭・地域の教育力の向上、地域学校協働活動の推進を図ります。
- ④ICTの進展に対応し、市民の主体的な学習活動を支援するため、デジタル環境の整備を図ります。
- ⑤生涯にわたる読書習慣の形成のため、利用しやすい図書館としての環境整備を図り、若い世代にも対応した資料の収集と適正な蔵書に努め、学習機会の提供を推進します。



▲子ども図書館

(2) 歴史・文化資源の保存活用

【求められていること】

- 少子高齢化等の急激な社会の変化により、地域に伝わる祭りや郷土芸能等の継承が課題となっています。
- 令和2年度に実施した市民意識調査によれば、歴史・文化資源の保存活用に関する施策を重要であると感じている市民の割合が低く、保護継承に対する意識が低いことが課題となっています。
- 近年多発する災害や経年劣化による建物への影響を考慮しながら、指定文化財である郷土資料館を適正に保存活用していくための具体策の検討が課題となっています。

【取組目標】

- ① 地域に所在する文化財（文化遺産）を、まちづくりなどの分野にも生かしつつ、地域社会総がかりで継承していく取組みの充実を図ります。
- ② 郷土資料館を文化遺産の価値や魅力を身近に体感できる中心的施設に位置付け、学習や情報発信の場としての活用を推進します。

【主な施策】

- ① 伝統文化・行事の記録化を進めます。
- ② 地域における人づくり、地域づくりを担う中核人材を育成し、地域の文化財資源の保存・活用、保存団体の復活支援を図ります。
- ③ 国史跡である梁瀬浦遺跡（北郷）や古代の伊具郡の役所跡とされる角田郡山遺跡（枝野）をはじめとした重要な遺跡の保存と積極的な活用を図ります。
- ④ 「牟宇姫への手紙」や角田城での様子を記録した「内留」など、地域や資料館に残る古文書をはじめとした歴史資料の調査研究を推進し、歴史や文化等に関する市民の関心を高めます。

（３）文化芸術活動の推進

【求められていること】

- 日本固有の文化芸術を支えてきた世代が高齢化しており、伝統芸能や生活文化を次世代に確実に引き継ぐことが重要になります。
- 全ての市民が様々な文化芸術に触れる機会を増やすことにより、暮らしの活力の維持・向上を図ることが重要です。
- かくだ田園ホールを中心に、市民主体の様々な文化芸術活動拠点として利用しやすい環境整備を図る必要があります。

【取組目標】

- ①文化芸術活動の担い手の育成を図るとともに、市民参加型公演事業などを通じ、市民が文化芸術にふれる機会の拡充に努め、文化芸術活動の拠点となるかくだ田園ホールの活用を図ります。

【主な施策】

- ①世代を問わず、市民力を生かした創作活動や発表の場を創出し、市民による様々な文化芸術活動を推進するために、かくだ田園ホールを活用し、多様な文化芸術に触れる機会を創出します。
- ②地域の文化芸術団体、企業、学校等と連携した文化芸術活動を支援し、多様な文化活動をつなぐ文化芸術活動のネットワークを構築します。
- ③児童生徒が文化芸術活動に親しむ機会の創出を図るとともに、全国的に変革期を迎える中学生等の文化部活動の実施環境の充実が図られるよう、地域の多様な主体と連携し、持続可能な部活動の環境を整備します。
- ④かくだ田園ホールを活用した多彩な文化芸術の鑑賞機会を充実させるとともに、利用しやすい環境を創出し、地域の芸術家、文化芸術団体、市民等による文化芸術活動での幅広い利用を促進します。

(4) スポーツによるまちづくり

【求められていること】

- 本市のスポーツ振興は、県内有数のスポーツ施設であるかくだスポーツビレッジを拠点として、角田市スポーツ推進計画に基づき総合的に推進しています。
- 小中学生の体力は、全国平均に近付きつつあるものの、スポーツをする子供と、しない子供の二極化の傾向が顕著となっており、スポーツを好きになってもらう取組が必要です。
- 本市の成人のスポーツ実施率は向上傾向にあるものの、全国平均に比べると低い状況であり、スポーツをしていない方々に新たにスポーツを楽しんでもらう取組が必要です。
- かくだスポーツビレッジのスポーツ施設は、設置から年数が経過していることから施設の補修を計画的に進め、利用者の安全性を確保する必要があります。

【取組目標】

- ①スポーツにより明るく楽しく健康で活力あるまち（アクティブシティかくだ）の実現を目指します。

【主な施策】

- ①スポーツをしていない方々にも新たにスポーツを楽しんでもらえるように、スポーツが「楽しく、さわやかで健康につながる活動であること」や「日常における身体活動（散歩、清掃、家事など）」も意識的に体を動かすことは全てスポーツであることを広く周知し推進するために、全市民による健康づくりイベント「角田市チャレンジデー」を開催します。
- ②ライフステージに応じたスポーツ活動を推進していきます。特に、元気な子供を育成し、生涯スポーツを楽しむ基盤づくりのため、乳幼児に「楽しく体を動かす運動あそび」を提供する「かくだ版アクティブチャイルドプログラム」を実施します。さらに、全国的に変革期を迎えている中学校での部活動について地域スポーツと連携し、持続可能な在り方について検討し見直しを図ります。
- ③誰もが快適にスポーツに親しむことができるようにかくだスポーツビレッジ等を有効活用し、さらには、自然と体を動かしたくなる、動かしてしまう環境の在り方を検討します。

2 点検評価結果

【分野別施策 第1節 未来を生き抜くための教育環境づくり】

(1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成

事業名		児童生徒生活指導事業
事業の目的		児童生徒生活指導員を配置し、市内小中学校の生徒指導主事等との連携を図り、児童生徒の生活に関する指導及び助言を行い、健全な児童生徒の育成に努める。また、特別支援教育に係る保護者との教育相談等も実施し、適正な就学に努める。
事業の内容		市内小中学校や地域の関係機関等との連携を密接に行い、児童生徒の悩みや心の問題の実態把握に努め、不登校支援や非行防止のための相談業務を行う。その他、就学指導に係る相談や安全パトロール(巡回指導)等を実施する。
評価	成果	<p>教育現場に精通している教職員経験者を児童生徒生活指導員として任用し、関係機関と連携しながら、きめ細やかな支援を学校や児童生徒に対し行うことが出来た。</p> <p>就学指導の場面にあつては、教育相談の他、学校見学に同行する等して、保護者や児童に寄り添いながら指導にあたった。</p>
	課題	<p>学校、児童生徒の抱える問題等は多様化・複雑化し、その数も増加傾向にある。これまで以上に学校、児童生徒に寄り添った支援を行うことが求められ、人員等の拡充に加え、より効果的な支援となるよう支援の在り方の見直しが課題となっている(効果的な連携手法の構築、情報機器の利活用、働き方改革による教職員負担軽減等)。</p> <p>特に、適任な人材をどう確保していくのかが課題がある。</p>

事業名		スクールソーシャルワーカー活用事業
事業の目的		いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待等の児童生徒が抱える様々な問題や生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を持つスクールソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士等）を配置し、教育相談体制の整備に資する。
事業の内容		<p>宮城県スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業により、スクールソーシャルワーカー1名（社会福祉士、精神保健福祉士等）を配置し、関係機関との連携を通じて、課題を抱える児童生徒及び家庭への支援を行う。</p> <p>○主な事業内容</p> <p>（1）課題を抱える児童生徒の話し相手となり、悩み等の相談に応じる。</p> <p>（2）課題を抱える児童生徒の保護者の悩み等の相談に応じる。</p> <p>（3）家庭や学校と関係機関・児童福祉施設等の連携を支援する。</p> <p>（4）学校の教育活動を支援する。</p>
評価	成果	<p>社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ者をスクールソーシャルワーカーとして任用し、関係機関と連携しながら、きめ細やかな支援を学校や児童生徒に対し行うことができた。</p> <p>令和4年度からスクールソーシャルワーカーを子どもの心のケアハウスに拠点配置することで、より効果的な不登校支援ができた。</p>
	課題	<p>学校、児童生徒の抱える問題等は多様化・複雑化し、その数も増加傾向にある。これまで以上に学校、児童生徒に寄り添った支援を行うことが求められ、人員等の拡充に加え、より効果的な支援となるよう支援の在り方の見直しが必要となっている（効果的な連携手法の構築、情報機器の利活用、働き方改革による教職員負担軽減等）。</p> <p>特に問題等が多様化・複雑化することにより、スクールソーシャルワーカー単独での問題解決がより困難になってきており、活動時間の拡充と効果的な連携手法の構築が課題である。</p>

事業名		いじめ防止対策推進事業
事業の目的		平成26年11月に策定した角田市いじめ防止基本指針に基づき、いじめ防止の対策を総合的・効果的に進めていくもの。
事業の内容		<p>条例により「角田市いじめ問題対策連絡協議会」、「角田市いじめ防止対策調査委員会」を設置し、いじめ防止等に関係する機関及び団体の連携を図り、また、いじめ防止に関する対策やいじめに係る調査審議ができる体制を整える。</p> <p>いじめに関する通報や相談を受ける窓口の確保や関係機関、学校、家庭、地域社会等との連携強化及び学校、家庭への支援を行う。</p>
評価	成果	<p>いじめ防止対策連絡協議会等を設置し、連携強化を図りつつ、関係機関及び団体の専門的な立場からの助言等を参考にしながら、より効果的ないじめ防止対策となるよう取り組んだ。その他、関係機関の協力のもとで非行防止教室等を行う等、関係機関と連携しての取組も行っている。</p> <p>なお、各学校での取組については、いじめ防止サミットで子ども達自らが発表し、市内小中学校で共有した。また、いじめ防止に関し、子ども達が主体的に考え、それを共有できる仕掛けづくりを行った。</p>
	課題	<p>学校、児童生徒の抱える問題等は多様化・複雑化し、その数も増加傾向にある。これまで以上に学校、児童生徒に寄り添った支援を行うことが求められ、人員等の拡充に加え、より効果的な支援となるよう支援の在り方の見直しが課題となっている（効果的な連携手法の構築、情報機器の利活用、働き方改革による教職員負担軽減等）。</p> <p>特に、いじめ防止対策を進めるにあっては、重大事態にならないよう、いじめの機微を見逃さないよう家庭を含めた周囲の大人が寄り添い、見守ることが肝要である。そのためにも、働き方改革による教職員の負担軽減を推し進めることが求められる。</p> <p>また、スマートフォンの利用によるSNSでのトラブルのほか、インターネットを入口に犯罪に巻き込まれる事例があることから、インターネットの利便性に潜む危険性や情報モラル・情報リテラシーの知識が児童生徒に浸透するような取組を継続して行う必要がある。</p>

事業名		子どもの心のケアハウス運営事業
事業の目的		角田市立小・中学校に在籍する児童生徒のうち、心理的・情緒的理由等により登校できない状態または不登校傾向の状態にある児童生徒に対して、家庭と学校の間隔的な子供の居場所として「角田市子どもの心のケアハウス」を設置し、児童生徒、その保護者及び学校等への支援を行うもの（平成 30 年度からの設置（場所：角田字扇町5-3）し、令和 3 年度より旧横倉児童館へ移転（横倉字今谷 186-2）。）。
事業の内容		不登校等の児童生徒及び保護者に対し、教育相談・生活相談及び学習指導等の支援を通して、不登校等児童生徒の自立及び学校生活への自発的な復帰を促すもの。
評価	成果	<p>教育現場に精通している教職員経験者を主任指導員として任用し、関係機関と連携しながら、きめ細やかな支援を不登校児童生徒及びその保護者に対し行うことができた。</p> <p>特に高等学校への進学に向けての学校見学に際し、指導員も同行する等して学校と連携しての支援を行うことができた。</p>
	課題	<p>学校、児童生徒の抱える問題等は多様化・複雑化し、その数も増加傾向にある。これまで以上に学校、児童生徒に寄り添った支援を行うことが求められ、人員等の拡充に加え、より効果的な支援となるよう支援の在り方の見直しが課題となっている（効果的な連携手法の構築、情報機器の利活用、働き方改革による教職員負担軽減等）。</p> <p>特に、不登校児童生徒は小・中学生ともに増加傾向にあり、その不登校の背景を紐解き、個に応じた支援を行う必要がある。そのためには指導体制の充実を推し進めるとともに、アウトリーチを含めた効果的な支援の在り方を検討し、実施していく必要がある。</p>

(2) 時代の要請に応える教育環境の整備

事業名		学校給食センター運営事業
事業の目的		<p>児童・生徒の健康増進と体位向上を目指し、衛生管理並びに食材の安全確認に重点をおきながら、安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食の提供に努める。</p> <p>また、学校訪問による食に関する指導や地場産物を取り入れた献立作りを行うなど、食育の観点から学校給食が「生きた教材」として活用されるよう努める。</p>
事業の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・週5日の米飯給食の実施 ・栄養教諭による食に関する指導の実施 ・学校給食センター運営委員会及び学校給食用物資選定委員会の開催 ・学校給食使用食材の放射能検査の実施 ・食物アレルギー対応食の提供 ・施設、設備の維持管理等
評価	成果	<p>安全・衛生管理及び施設設備の維持管理に努め、安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食を提供することができた。また、学校訪問による食に関する指導を通し、児童生徒の健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図るとともに、献立にも工夫を重ねる等、食育の推進に努めた。</p>
	課題	<p>令和2年度から市が保護者から直接口座振替等の方法により学校給食費を徴収しているが、新たな滞納者が発生しており、滞納額も増加傾向にある。公平性を保つため滞納解消に向けた対応方法を検討していく必要がある。</p>

【分野別施策 第2節 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進】

(1) 生涯学習の充実

事業名		家庭教育推進事業
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいを通して親子の愛着形成を促進する。 ・親同士が交流する場の提供をする。 ・市内保育施設等で行われる講演会等において、保護者が家庭教育について学ぶ機会の支援を行う。
事業の内容		<p>【主な事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふあみふあみ(対象:2～4歳の幼児とその保護者) ・家庭教育学級(対象:市内の幼稚園、保育施設等に通う幼児とその保護者)
評価	成果	「ふあみふあみ」や「家庭教育学級」について、楽しい雰囲気のもと親子の愛着形成を促進し、また子育てについて、親の気づきが得られる場の提供ができた。
	課題	母親だけではなく父親の事業参加も増えてきているが、参加できない保護者の掘り起こしや祖父母にも参加してもらえるような新たな場の設定や周知方法を考えていく必要がある。

事業名		次世代育成推進事業
事業の目的		持続可能な社会を実現するため、次世代を担う人づくり・地域をサポートする新たな人材の育成を行う。
事業の内容		<p>【主な事業内容】</p> <p>①ジュニア・リーダー育成</p> <p>(自主研修会、初級研修会、中級研修会、上級研修会等)</p> <p>②かく大學</p> <p>(かく大學オープンキャンパス、各学部、チャレンジラボ、最終報告会等)</p> <p>③高校生地域探究活動支援</p> <p>(角田高等学校の「総合的な探究の時間」に係る授業の設計と実施、年間計画の作成支援、放課後探究相談の実施、生徒への伴走支援等)</p>
評価	成果	<p>①ジュニア・リーダーに研修の機会を与え、技術の向上と親睦を図り、これからの活動に役立つ資質を養うことができた。また、成果発表の場として市内小学生を対象に開催した「パフと遊ぼう会」では、楽しみながら活動することで子ども同士のつながりもできた。</p> <p>②かく大學を通じて、応援しあえる仲間との出会いや、つながりができ、学習意欲の醸成及び主体者間のネットワークを形成することができた。</p> <p>③高校生が自らのテーマを見出し、地域でのアクションやチャレンジに向けたプログラムを組むことができた。</p>
	課題	<p>①子ども達にジュニア・リーダーの魅力を伝える場を確保し、会員を増やしていくことが必要である。</p> <p>②より活動を広げられるよう、かく大學のOB、OGにもサポートが継続できるような体制をつくる必要がある。</p> <p>③角田高校の生徒が、角田市をフィールドにして、さらに主体的な活動が行えるよう支援していく必要がある。</p>

3 ま と め

近年において、我が国では人口減少、少子高齢化、高度情報化社会、国際化の進展や家庭環境の変化など、社会を取り巻く環境は大きく変化しており、教育分野においても早急に対応しなければならない様々な課題が生じています。こうした中であって、教育委員会はより開かれた運営と活発な議論が必要不可欠であり、その機能を十分に発揮しながら諸施策を適正かつ円滑に実施していくことが責務であります。

令和4年度の教育委員会定例会等での審議並びに協議内容は、議案の議決や報告事項のほか、事業や課題等を活発に議論しました。学校教育では、「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」に基づいた学校の統合を進める一方、文部科学省が推進する「GIGA スクール構想」を実現するため、令和3年度において児童生徒に一人一台配備したタブレット端末を使用し、引き続き日々の授業に ICT を活用することで、情報活用能力の育成を図りました。また、社会教育では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、これまで自粛や中止をしてきた事業等を順次再開しました。

今後は、第2期角田市教育振興基本計画に基づく事務事業を推進する中で、さらに地域・社会・学校関係者等、多くの方々と意見交換の場を設けることで、市民と現場との意思疎通を図りながら、一層の教育委員会の活性化を目指してまいります。

令和4年度の事務事業点検評価を実施するにあたっては、3名の有識者による幅広い見地からの貴重な外部意見を頂戴いたしました。総評としては、概ね期待通りの評価もありましたが、事業の問題点や改善点のご指摘、ご提案、あるいはさらなる充実と発展へのご要望等、建設的意見が多数ございました。本市の教育行政のさらなる推進と方向性において非常に参考となるご意見でした。

なお、今回の事務事業点検評価の結果は市議会をはじめ、市民の皆様に公表・報告することにより、常に事業の有効性についての意識を持ちながら諸施策を遂行するとともに、なお一層の教育行政の推進を図ってまいります。

角 田 市 教 育 委 員 会